

対面での授業がようやくスタートし、短い夏休みの中、理科好きの生徒たちが集まり 2 日間の実験講座を経験できました。このような状況の中、中高生に対して座学だけでは得られない科学の“おもしろさ”を講師の先生から教わりました。講師の先生からのメッセージをお伝えします。

未来を担う生徒のみなさん、このような状況の中でも科学、そして学問の“おもしろさ”をみつけてがんばりましょう！！応援しています。

= 講師の先生から理科好きの皆さんへメッセージ =

私は子供の頃から実験が大好きなので、この状況下だからこそ、今の生徒達にも実験を楽しんでもらう機会を提供したいと思っています。今回、それを3校合同の『理科特別講座』という形で実現できました。

私は、「サイエンスは楽しい」と実感することが次世代の科学技術を担う研究・開発人材の育成に繋がると信じています。今回のような実験講座は、中学・高校の生徒さん達への動機づけになると同時に、その道を歩みつつある大学生・大学院生が TA(ティーチングアシスタント)として参加することで、その喜びを共有し、再認識することも目的の一つと考えています。アンケート結果にも表れているように、生徒達が年齢の近い先輩と一緒に活動することで、身近なロールモデルから直接話を聴けることは教員から教わるだけでは得られない貴重な経験になります。(今回は一緒にご飯を食べられなかったので、この効果が半減してしまったのが残念です。仕方ありませんが……。)

40名の生徒に対してTAを10名も動員して、さらに事前研修にも2日間を費やして過剰ではないのか、と思われたかもしれませんが、この事前研修を経験した先輩達の存在により、中学生でも高度な実験操作を体験でき、グループワークでは論理的思考も培うことができる教育効果の高い講座になりました。

学校現場がお忙しいことは充分承知していますが、今後も是非、卒業生の先輩たちを巻き込んで、サイエンスを楽しんでください。

東北大学大学院医工学研究科

沼山 恵子